

◆ 2026年1月31日（土）14:00～16:00に新橋亭で新年会を開催します。

◆ 公式サイト <http://tuwvob.yamagomori.com/>（新しくなりました）

◆ メールアドレスの変更はOBG会幹事（26期 伊田）までご連絡ください。

date.hiroyuki@icloud.com

◆ 女性の卒業生もいるので、公式には「OBG会」とします。みなさんから寄せられた名称は原稿通り「OB会」とします。

## 活動報告と近況のご連絡

### 第5期同期会の開催

5期 谷 正實

第5期の21名中の14名が参加して、10月29、30日と第5期の同期会を南三陸温泉観洋で開催した。ホテルの送迎バスが13:30に仙台駅東口から出発し、次の日の12時に東口まで送ってくれるということで、29日には今年の6月に鬼籍に入った瀬尾さんの墓参りを、30日には東北大の青葉山キャンパスの見学を組み入れた。

齢80歳を過ぎてまだ現役で仕事をしている同期生として、朝倉さん、八木さん、吉田さんの3名がいる。このうち今回の集まりに参加した朝倉さんには、ラオスで沈下橋をかけている話を、八木さんには日本写真家連盟に山岳写真を寄稿している話をして貰った。参加者全員が皆感心して両氏の話に聞きほれていた。

ホテルの観洋は、眺めよし！風呂よし！料理よし！と3拍子揃っていた。30日の朝には岩風呂野天風呂からの日の出を眺め、朝食後に震災遺構の語り部ツアーが出るということで、帰りのバスが出る前にこのツアーに参加したメンバーが8名いた。この語り部の話の巧みさにみな、感心して聞き入っていた。私も思わず涙ぐみそうになる話であった。機会があればホテル観洋の語り部ツアーは試してみる価値があることをお知らせする。

随分盛沢山の同期会であったが、来年の再会を期して仙台駅東口での解散となった。



# 8・9期合同山行 第23回 尾瀬ヶ原

8期（昭和44年卒）相原 敬

2025年7月13日（日）14日（月） 至仏山荘（泊）

参加者15人 8期：9人 小笠原、守護、根岸、前田、三日月、三原、宮下、渡辺、相原

9期：6人 石野、伊藤夫妻、原田、若狭、富川奥

（以上敬称略）

今年の OBG 山行は石野&伊藤両幹事の主導で、第7回以来20年ぶりになる尾瀬ヶ原に決まった。数台の車に乗り合せて予定通りに尾瀬戸倉の道の駅に集合。軽い昼食を摂ったのちに戸倉駐車場から乗り合いタクシーで鳩待峠入りしたのは正午を少し過ぎた頃だった。不順な天候に気をもんだ計画だったが、朝から良い天気にも恵まれた。

歳はとってワングル育ち、下り一辺倒の山の鼻までは全員仲良く快調にこなしてひと息つく。小屋前のベンチで旧交を温めて自由にしていたが、予定通り全員で上田代までピストンする。

この時季は残念なことに尾瀬らしい花が少ない。水芭蕉とニッコウキスゲの端境期だったが、ワタスゲ、トキソウ、ヒツジグサ等が印象的だった。エース三日月さんだけが竜宮までピストンした。



上田代から燧ヶ岳



咲き始めたニッコウキスゲ



トキソウ



ヒツジグサ

共同食堂での夕食は粛々と済ませ、開放的な外のベンチに出て他愛のない話で盛り上がった。部屋に戻って恒例の酒ミーティング。話し疲れて寝るころには満天の星。

ZZZZZZZZZZZZ

翌朝 5:12、至仏に綺麗な虹が掛かる。全員の前途を象徴するが如き荘厳な虹。早起きした奇特な人だけが臉に刻み、寝坊助はあとで写真を見せられた。早起きは七色の徳。

尾瀬ヶ原の一端は既に昨日歩いたので、きょうは植物見本園を大廻りして、尾瀬の雰囲気をつっぷり味わうことにした。

きょうも素晴らしい日和だ。こうやって昔の仲間と楽しく過ごせるなんて最高じゃないか。また来年♪ 山で会おうな。

右／翌朝、出掛ける前に全員揃って



至仏山に掛かった綺麗な虹





池塘に映る逆さ至仏



楽しい二日間だった

美しい自然が織りなす尾瀬ヶ原で仲間たちとのトレッキング、心温まる二日間を過ごすことができた。観光のような OBG 山行だったが、TUVV の懐かしい思い出と新たな希望に満ちていた。皆んなの笑顔や可愛い花、荘厳な虹、そして燧ヶ岳や逆さ至仏の景色を忘れないようにしましょう。

道の駅尾瀬かたしな【L】＝戸倉P＝鳩待峠…至仏山荘…上田代散策…至仏山荘【泊】  
至仏山荘（植物見本園散策）…鳩待峠＝戸倉P【戸倉の湯】【屋外ベンチL】解散

## 11 期・同期会 —今年も東京で開催しました—

11 期（昭和 47 年卒）鈴木元昭

今年も、11 期が、東京に集まりました。

全員が、後期高齢者になりました。それでも全国から日帰りで仲間が集まってきました。四国から、秋田から、明石から、奈良から、松本から、水戸から。

場所は、大手町のレストラン「ベラージュ」。12 時半から 15 時までの 2 時間半、濃い時間を過ごしました。

全員、近況報告をしました。時間が足りませんでした。

同じ時期を生きてきた仲間の話は、お互いをとても刺激しました、そして、お互いを元気にしました。来年も、また集まります。最高齢者が 80 歳になるまであと 3 年は続けたいと、みんなで誓いました。



# 紀伊半島の百名山、大峰山・大台ヶ原 奈良県は奥深い

22期 手塚和彦

目的地：大峰山・大台ヶ原

日程：2025年10月10日～12日

メンバー：手塚和彦（PL、22期）、石川 勤（22期）、千田敏之（21期）、富士原（21期）

例年8月に夏山合宿を行っている21・22期の4名は、新しくなった伊藤新道から三俣蓮華を目指すという野心的な計画を立て湯俣川の水位情報を神経質にチェックしていたものの、予定日のお盆休みは全国的な降雨予報となり断念、消化不良のまま夏を終えていた。

その埋め合わせ山行として選んだのが紀伊半島の中央、熊野古道の一角をなす大峰山と大台ヶ原である。東北や甲信越を中心として山歩きをしてきた私とメンバーにとって紀伊半島は未知の山域で、全体の広さや山々の位置関係がピンと来ていなかったため、地図を広げてその大きさに少々驚き、ふたつの山を一緒にして考えていたことが誤りだったと知った。しかし、両山ともに日本百名山であり、いずれは登らなければならない。紀伊半島の奥地にはなかなか行くチャンスもないので、なんとか2泊3日で両方登りたく、レンタカーを利用した少々旅行のような秋の山行となった。

10/10。一行は京都駅に集合して近鉄で橿原神宮前に移動、そこでレンタカーを借りて奈良県吉野郡天川村の洞川（どろかわ）温泉へ向かった。途中、明日香村の石舞台古墳に立ち寄り巨石に感動するなど旅行気分での始まりである。洞川温泉は大峰山の登り口として古くから行者や拝観者の湯治場として栄えた温泉地。十軒ほどの温泉旅館が軒を並べている。提灯飾りが湯治場の雰囲気盛り上げていて浴衣に下駄で散策したくなる風情である。

10/11。翌朝は旅館でこしらえてもらった弁当を抱えて早立ちし、行者環（まわし）トンネル西口の駐車場に車を止め、八経ヶ岳を目指した。八経ヶ岳（1915m）は近畿地方の最高峰であり、日本百名山の八峰山とはこれを指すようである。この山域は日本一雨が降るそうで、この日も朝から雨。雨の中、急登を4時間歩き、弁天ノ森、弥山（みせん）を経て八経ヶ岳に到着。眺望はゼロ。苔むした古道の雰囲気を感じながら来た道を下り、7時間の行動を終えた。

この日の宿泊はWASAMATA HUTTEというキャンプ場である。できれば風呂に入りたいという全員の願いから、少し大回りであるが「道の駅 吉野路上北山」に立ち寄り温まった。とてもきれいな立ち寄り湯でおススメである。

WASAMATA HUTTEには宿泊施設もあり、千田さんからは宿泊がいいとのヒヨリの声上がるが、追加料金がかかるためテント泊と決め、静かなキャンプサイトでの焚火を楽しんだ。

10/12。次は大台ヶ原である。大台ヶ原は大峰山脈からみると一筋東の山域であり、そこを繋ぐように大台ヶ原ドライブウェイという立派な道が通っている。天気良ければ大台ヶ原の山深さを実感できる素晴らしい眺望のはずであったがこの日も雨で何も見えなかった。

車を大台ヶ原ビジターセンターに留め、最高峰の日出ヶ岳を目指して出発。35分でピークについてしまった。ピークには丸太を組んだ立派な展望台があるが、何も見えないので、不運な登山者のために用意されたイラスト看板を見て想像を巡らせた。

これで下るのでは百名山に登った感がないので有名な大蛇ヶ（だいじゃぐら）を目指すことにした。雨の中をひたすら歩くことに意味を見いだせない複数のメンバーの声に耳を塞いで、朝日ビジュアルシリーズ「週刊日本百名山」が推奨する周回コースを踏破した。大蛇ヶはなかなかのスリルなのでおススメです。行動3時間半。駐車場に戻り山行は無事終了。途中、奈良県吉野郡川上村の入之波（しおのは）温泉山鳩湯に立ち寄り身体を温め、橿原神宮前に戻った。含炭酸重曹泉が大量に湧き出す素晴らしい温泉であった

今回は百名山ハンターの手塚に心優しい千田さん、富士原さん、石川さんが付き合ってくれた、という感じの山行でした。あまり厳しくない登山と温泉旅行の組み合わせのような企画でしたが、こういうのもいいなと。こんなことがなければ洞川温泉なんて生涯訪れることもなかったでしょうし、入之波温泉の驚くべき炭酸カルシュームスケールを目にすることもなかったでしょう。

みなさん、ありがとうございました。



明日香村の石舞台



洞川温泉



八経ヶ岳 (大峰山)



大蛇峠 (大台ヶ原)



日出ヶ岳 (大台ヶ原)



WASAMATA HUTTE キャンプ場

## わくわく富山・能登半島旅行

26期 伊田浩之

61、62歳を迎えた26期は、サラリーマン人生の卒業を迎える年齢である。なんらかの形で65歳までの雇用が企業に義務づけられているとはいえ、第二の人生をスタートさせている仲間も少なくない。

長谷川謙司は2022年から妻の実家がある富山県（長谷川の初任地）で、果樹園を営んでいる。その果樹園の見学がてら、10月11日（土）～13日（月、祝）に富山に出かけた。参加者は同期11人のうち4人（長谷川、北村、小松、伊田）。静岡の実家の茶畑を果樹園にしている森寿弘は、直前にコロナになってしまったため、急遽キャンセルとなった。

11日は、高岡駅と新高岡駅で長谷川にピックアップしてもらったあと、長谷川の果樹園（<https://hasegawakajyuen.wixsite.com/hasegawakajyuen>）へ。大きく分けて2カ所にある果樹園で、桃と



ネクタリン、イチジクを育てている。まだ収穫時期のイチジクがとてもおいしい。5カ所の直売所に加え、オンラインショップでも扱っている。また、ふるさと納税の返礼品としても人気が高いそうだ。夜は「ひみ番屋街」の温泉「総湯」につかり、居酒屋で富山の海鮮を味わったあと、長谷川の自宅に泊めてもらった。

12日は二グループに分かれた。膝が悪い伊田と小松はレンタカーで能登半島へ。元気な北村と長谷川は、白木峰に登りに行った（別項参照）。

能登半島組はまずは先端を目指す。半島中央部の幹線道路は復旧しているものの、片側交互通行もあり、渋滞もある。道が不自然に波打っているところもある。原発建設計画があった地家地区を経て先端の駐車場へ。「ランプの宿」は休業したママだ。

半島の西側をめぐる輪島に向かうが途中で「関係者以外通行禁止」。迂回路は複雑で行き止まりもある。輪島の朝市があった場所は、まだ寂れたままで、撤去されていない建物もある（右写真）。復旧の支援がまだまだ足りないと感じる。



12日夜は民宿「湯の里いけもり」で宴会。13日は、ほたるいかミュージアム（富山県滑川市）や県立イタイタイ病資料館（富山市）などを車で訪れた。

今年は筋トレを張り切って、山に行けるようにできればと願っている。（敬称略）



左から北村健太郎、伊田浩之、小松義秀、長谷川謙司

### 「白木峰」山行

26期 長谷川謙司

2025.10.12

氷見市朝日丘 05:50==（自家用車）==07:40 白木峰駐車場 08:030 ~ 08:46 白木峰山頂 08:56 ~ 09:21 浮島 09:43 ~ 10:12 太子堂 10:16 ~ 10:30 白木峰山荘 10:39 ~ 11:11 白木峰駐車場 富山市 HP 掲載「白木峰トレッキングマップ」ご参照

[https://www.city.toyama.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/006/038/sirakitore.pdf](https://www.city.toyama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/038/sirakitore.pdf)

26期はだいたい毎年、同期山行を行っている。今年は私（長谷川）が造った果樹園を見る事も目的に、富山県まではるばる3人が来てくれた。ただし山行に向かうのは北村と私の2名で、他2名（伊田・小松）はドライブ観光となったのは、全員が還暦を過ぎた所以か。

白木峰は駐車場から片道1hrで行ける池塘の楽園で、頂上を中心に広く木道が敷かれている。

私は社会人1年目の1989年にも行った事があり、36年後の残酷な変化を見るのが半ば恐かったが、池塘は存在し、山は穏やかで、すれ違う人たちも気さくで親しみやすく、あまり変わっていない印象であった。社会はこんなに変わったのに。あー、でも昔はもっと池塘が多かったかな。

駐車場からの登りは急傾斜で、ロープ等は整備されているが、なかなかキツイ登山道が管理林道(一般車禁止)終点まで続いている。帰路は半分以上この林道を選択したが、ブラブラ快適に歩け、所要時間も同じくらい。途上に「ヒメオオクワガタ」を専用の「伸縮式小型虫取り網」持参で採取に来ているマニアに会う。目がギラギラしていたが、「ここは林道付近で採れるので穴場です。」とフレンドリーに話してくれた。同山者との交流も楽しい秋の低山ハイクの日であった。欲を言えば来年はもう少し山行参加者が多い方がいいかな。(敬称略)



## 熊

4期 小原佑一

今年の秋は人里に出てきたクマの話題で大騒ぎでした。

現役以降50年以上、山それも藪山を主に歩いてきたけど熊にあったのは一度だけ。

現役2年の南アルプスの夏合宿が終わって個人山行として蓼科山から赤岳、小海線を横切って秩父を縦走して奥多摩(昔の名前は氷川駅)まで歩いた時でした。

信州峠をちょっと下った時、ガサガサと谷から目の前10mくらいに黒い動物が飛び出してきました。

その日の朝、牧場で牛に食料を食い荒らされたので

また牛? ちょっと違う! 犬にしては大きい!

熊と気づいた時には先方もこちらに気付き、物凄い勢いでまた谷に向かって駆け降りていった。

東北の脊梁山脈を歩こうとしていた時期、鬼首の奥で春先の残雪の稜線を歩いていて熊の巻狩りに遭遇したり、里を歩いていて「山に入るのになぜ鉄砲持ってこないんだ!？」といわれたこともあったけど、実際に熊を見ることはなかった。

2011年秋、東北の温泉を巡った時、秋田駒に近い国見温泉に泊まりました。ここの温泉は黄緑の入浴剤「バスクリン」みたいなお湯で気持ちがいい。

露天風呂にのんびり浸かっていると小さな沢の先の木に熊が登っているのが見えた。当時は熊が人に危害を加えるのは、春先子熊を連れてくる時か、ばったり出会った時ぐらいしかないと思っていたので、これくらい離れていれば大丈夫と、お湯に浸かりながら観察していた。

一緒に入っていたおばさん達(混浴でした)は双眼鏡を持ってきて湯船から熊をのぞいていました。双眼鏡で覗かれるのがおばさん達なら……???

熊は一向に木から降りないので温泉は適当に切り上げて部屋に戻りましたが、暗くなっても熊はまだ木の上にいました。

宿の人から絶対に熊がいたとは言わないでください!と口止めをされました。

今年の春、秋田の田沢湖駅近くのお土産店兼食堂の店先に熊肉の自動販売機が置いてありました。さすが「またぎ」の里だと感心した次第です。250gで2200円でした。

信州の道の駅みたいな店(自由農園)に熊の肉のレトルトカレーが売られていたことがありました。今シーズンは鹿肉や猪の肉を使ったジンギスカンやカレーは並んでいたのに熊肉はありませんでした。昨シーズン売られていた冷凍の熊肉は200g 2138円でした。





## 浜松市 観音山

6期 加藤邦明

新東名高速道路沿いの駐車場から1時間で登山できる山としての浜松市の観音山を選んだ。なお、浜松市には観音山が2座あり、1座は天龍村との境界で標高 1,418.4 mの高齢者には危険な山で、今回の対象は浜松市浜名区と天竜区の境にあり子供たちも親しめる標高 575m である。2025 年4月1日に神奈川県鎌倉の自宅を自家用車で6時発、圏央道経由、新東名いなさIC、県道299号、浜松市立少年自然の家の駐車場には10時20分に到着した(曇り)。登山靴に履き替えて、入口の少年自然の家にご挨拶した。管理の若い方に登山口までご案内を戴いた10時45分、星の広場に11時16分、途中一休(を入れて)、観音堂にて昼食(12時から12時20分)、観音山山頂には12時30分に到着した(曇り)。

山頂を12時40分を下り、途中転びながら、脛に鎮痛剤のロキソニンテープを貼って、へろへろで下山、少年自然の家には14時15分着した。少年自然の家にご挨拶して、駐車場を14時30分に退出した。昼食時間を除くと、登り1時間25分(標準時間1時間5分)、下り1時間35分(標準時間1時間)であった。



## スイスの山旅 (2025.7/17 ~ 28)

8期 (昭和44年卒) 三日月道夫

スイスは憧れの地でこれまでに数回訪れていますが、今回はこれまでに訪れていなかった山々を巡るきままな一人旅で、チューリッヒから一周を電車、バス乗り放題、登山電車・ロープウェイなど割引で使用できる「スイスパス」での移動です。



ゼンティス山(Santis) 2502m、チューゼルルツグ (schaserrugg) 2262m、ティトリス山 (Titlis) 3238m、ピラトゥス山 (Pilatus) 2132m、リギ山 (Rigi) 1798m、ロッシェ・ド・ネー

(Rochers-de-Naye) 2024mなどの山へロープウェイ、登山電車で登り高山植物を見ながらハイキングを楽しんで、ほかに世界遺産などの観光スポットも訪れてきました。

何度訪れてもスイスの山々、湖、牧歌的風景、はすばらしい所でした。

「旅の地図」

<https://www.google.com/maps/d/u/0/embed?mid=1MJj1i73SuRjUgmunJbLhAOwVE0jpJD8&ehbc=2E312F>

## クライマーを育てる喜び

8期 (昭和44年卒) 佐藤 拓哉

「ハーレムライン」……私の大事なグループラインである。正式な名称は「夏の城ヶ崎でクラックを登る」というものであるが、いつしか「ハーレムライン」という愛称で呼ばれるようになった。ハーレムという名のとおり、男は私だけであり、他の20数名は女性ばかりである。

昨年の会報に「多くの人に伝えるクライミング」というタイトルで投稿し、私の弟子の女性が大キレット・長谷川ピークで滑落して死亡したのをきっかけに、彼女が生前、城ヶ崎に連れてきた女性二人を育て始めたことを報告した。結果は、その二人に留まらず、岩場や氷瀑で知り合った人、誘ってきた友達など雪ダルマ式に人数が増え、今では女性が35人程、男性が25人程と60人を超える一大グループに成長した。まだまだ増えそうな勢いである。クラックに登れるようになりたい人、アイスクライミングのレベルアップを図りたい人、レスキューを覚えたい人など様々である。

ネット社会ならではのこと、10個ほどのグループラインを駆使し、東京、千葉、埼玉、群馬、神奈川、静岡、愛知、三重、大阪と広い範囲から集まっている。8割くらいの方は山岳会に所属しており、現在10を超える山岳会の人々が来ている。新人だけではなく、山岳会の中心メンバーも来ている。

### 【初心者でもリードクライミングができるように】

クラックに登ったことのない初心者、初級ルートとは言え、一日でリードクライミングできるようにした。これまでに数人ほどの人が成功している。リードとは、自分でクラックにカムという道具をセットしてロープをクリップし、落ちてそこで止まるようにしながら登るものである。ガイド講習では、リードクライミングができるようになるまで何年かかかるのが普通である。登る前に、カムのセットの

仕方を教えるという逆転の発想の賜物である。「落ちないように登る」のではなく、「落ちてでも大事にならないようにして登る」という発想の転換が功を奏している。

#### 【ロープワークとレスキュー技術のレベルアップ】

これは最も大事にしていることであり、山岳会の中心メンバーも来ている所以である。マルチピッチの登攀がスムーズになり、時間短縮を図ることができ、万一のトラブルや事故にも対応できるようにしたい。これまでの講習会は大小合わせるとまもなく100回を数える。先日にも仙台に行き、現役にも沢登に必要なロープワークを教えたばかりである。

#### 【徹底した育成】

メンバーが60人以上いるといっても、いつもみんな参加する訳ではない。特に希望する人には徹底した個人指導をしてきた。この冬シーズンだけで17回も一緒に氷瀑を訪れ、八ヶ岳の南沢大滝をリードできるようになった女性もいる。また、クラックやフェースを登り込み、高難度のルートをリードできるようになった女性もいる。成功した瞬間、本人はもちろん嬉しいだろうが、私自身もそれに負けない程の喜びを感じる。

#### 【彼らはみんな仲間】

岩場ではよくガイドと間違えられる。全てを無料で行っており、ガイドでも山岳会でもない。無料とは言え、内容はガイド講習や山岳会の講習をはるかに凌ぐものであり、それがみんなの喜びに繋がっている。みんなの喜びがそのまま私自身の喜びにもなっている。オギヤーと二人で研鑽したクライミング技術や経験を、80歳間近になった今でも多くの人に伝えることができるのはこの上ない幸せである。みんなは私を「師匠」と呼んでくれるが、私にとってみんなはかけがえのない仲間なのである。



初めてのクラックのリード（城ヶ崎）



南沢大滝のリード（八ヶ岳）



上／忘年会のクライミング風景（城ヶ崎）

左／ハングしたクラックのリード（城ヶ崎）

## 小笠原弘三著「仮面から地球の “すがた、が見える”

8期（昭和44年卒）相原 敬

TUWV 8期の小笠原弘三さんが、仮面というキーワードに着目した調査研究を基に、世界百ヶ国近くを探訪し取材を重ねて丹念に積み上げた四十年間にも及ぶライフワーク的な著書です。

シリーズを通して読み終われば、地球のすがたが見えてくる壮大な物語になっていますので、ぜひご一読ください。

近年の世界情勢は政治経済ともに変革と混沌の入口にあり、将来の地球に対して楽観と絶望が入り混じる複雑な状況が広がっています。この時代認識のもとで地政学リスクの増大、経済構造の変化、気象変動と環境問題、技術革新等、世界が直面している問題は多岐にわたっており、この不確実性こそが今日の特徴であります。私たちが未来に向かって思いを巡らすときに、彼の著書は興味深く大いに参考になると思いましたので、ここに推奨する次第です。

全国主要書店と amazon で販売されています。

小笠原弘三著「仮面から地球の “すがた、が見える”

--- 地球（われわれ）はどこから道をたがえたのか ---

全四巻 文芸社



第一巻



第二巻



第三巻



第四巻

《 我々は何処から来たのか 》

第一巻『仮面に見るホモ・サピエンス前史』 2022年刊行

--- 宇宙創造から一神教誕生までを歴史する ---

《 我々は何者か 》

第二巻『仮面からヨーロッパのかたちが見える』 2025年刊行

--- ヨーロッパ「地球制服」の歩みをたどる ---

第三巻『ユーラシア時空の旅』 2004年刊行

--- 仮面からアジアのかたちが見えた ---

《 我々は何処へ行くのか 》

第四巻『仮面からアフリカ&アメリカのかたちが見える』 2026年刊行予定

--- 地球（われわれ）は何処へ行くのか ---

## 品川区からの表彰 セブ島、宮古島

10期 田中康則

2025年の10月に品川区から表彰されました。品川区に30年開業し、人権擁護委員や学校医をやった為です。有り難いことです。

ダイビングもそろそろ卒業する年齢になりました。今後はゴルフと旅行でもしながら、時々海に行ってシュノーケリングを楽しもうと考えています。ハワイが楽しみです。最後のダイビングはセブ島と宮古島でした。正月にセブ島、5月に宮古島。夏の宮古島はシュノーケリングのみ。それなりに充実の1年でした。



品川区から表彰を受ける



セブ島でのダイビング



ホテルマクタンの夕食



宮古島の海水浴場にて

## 津軽の生活が7年目になりました

22期（昭和58年卒） 利根川敏

青森県つがる市に単身赴任し、7回目の冬をむかえるところです。近況報告をします。

雪国の生活も7年目になると、県内の主な観光地や日本酒の酒蔵は全て制覇し、週末は静かに自宅で過ごしています。こちらでの悩み事は熊の出没で、自宅から徒歩1分から5分の所で頻繁に熊が目撃されており、自宅周辺を歩く時は、常に鈴を持ち歩いています。

61歳で始めたフルートに続き、65歳からはヴァイオリンを始めました。弦楽器は人生初挑戦、自

宅周囲は森ですので、ガリガリ、ギコギコといった音も気にせず練習ができます。ヴァイオリンも2年目に入ると、どうにか人前で演奏できるくらいになりました。指、目、耳に加え、頭や体を使いますので、ボケ防止には効果絶大かと思い、出社前に毎日練習しています。

津軽の夏を代表するねぶた/ねぶた祭りが終わると、りんごの収穫、白鳥の訪問、ストーブ列車運行に続き、津軽富士（岩木山）も真っ白になります。西北津軽を代表する五所川原の立佞武多、白鳥の訪問、大雪原と津軽富士の写真を送付しますので、ご覧になって下さい。

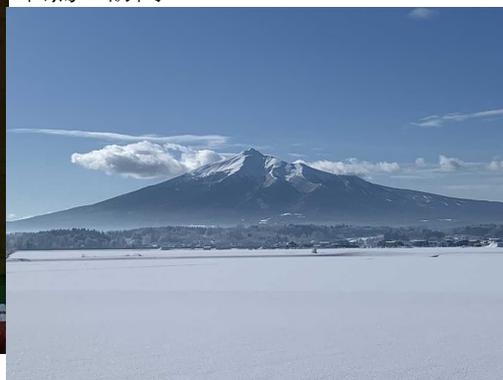
TUWVのOB/OGの方々や様々なご縁のあった方々との再会を、心から期待しています。



五所川原の立佞武多 右/大雪原と津軽富士



白鳥の訪問



## 現役部員との沢登とロープワーク講習会

29期 田原 誠

最近、現役部員の沢登や雪山縦走にオブザーバーとして参加させて頂くことが多くなっています。在仙のワングル同期と一緒にいていた栗原が名古屋に転勤して依頼、ソロが多かったのですが、この活動は現役部員の活動の幅を広げるのに一役かっているだけでなく、私の山行機会も多くなりお互いにWin-Winの関係かなと個人的には感じています。

今年は、7月26日（土）に、2年生の石田さんと1年生の田中君との3人パーティで、夏油温泉から入渓する枯松沢に行きました。田中君は沢初心者とのことでしたが沢登のセンスは十分に持っているように感じられ、石田さんは相変わらずのパワフルさで滝の登りやロープワークも格段に上達しており、父親目線で頼もしく感じました。沢自体は、上流部のV字ゴルジュに流木等が詰まっていたのがやや残念でしたが、透明な滝壺やナメ、滝の直登などバリエーションに富んでおり初心者から中級者まで十分に楽しめるとてもいい沢でした。

また、毎年恒例になりつつある8期の佐藤拓哉さんに来仙して頂いてのロープワーク講習会を、今年は遅めの時期になりましたが11月29日（土）と30日（日）の二日間に渡って仙台で実施しました。参加者は、講師として佐藤さんとお弟子さんの高木さんのお二人が来て下さり、2年生の石田さんと1年生の菊地君、岸本君、神野君、田中君、そして田原の総勢8名で実施しました。

場所は、当初、鎌倉山を予定していたのですが、前の週末にもっと近くで練習できるような斜面が無いか田原の方で廻ってみたところ、太白山の近くの舗装された林道の横に適度に灌木や立木があり、懸垂下降やトラバース、登り返しの練習もできそうな斜面を見つけたため、今回は（結局二日とも）そちらで実施しました。

リードの確保や懸垂下降と仮固定、マッシュャーを使つての登り返しに加えチロリアンブリッジや負傷

者と一緒に下降する方法など多岐に渡って基本をみっちり教えて頂くことができました。佐藤さんと高木さんのお二人には改めて感謝致します。

この斜面は、比較的近くて一般の方への迷惑にもなり難く、練習には最適だともいますので、今後もワングルの技術向上に役立ててもらえればと思います。



枯松沢入溪地点の石灰華の前で



淵を泳いで滝に取り付き果敢に登る石田さん



佐藤さんの話に耳を傾ける受講生



負傷者と下降する練習

## 2025年度 現役活動報告

67期（現役2年） 石田彩恵

TUWVは5月に新入生が入部し、4年生3人、3年生3人、2年生4人、1年生6人の計16人で2025年度の活動を始めました。また、秋には留学生2人が入部しました。以下に簡単ながら昨年度の雪山山行を含め、活動報告をさせていただきます。

昨年度は冬山登山復活から2年目となり、厳冬期への挑戦やより泊登山を増やすことを目標とし、4年生2人（卒業済み）、2年生2人（現3年）、1年生1人（現2年）で活動しました。部長の長澤淳彦先生（35期）やOBの田原誠さん（29期）のご指導、お力添えのおかげで1月の早池峰山や3月末の白神岳（向白神岳は天候が悪く撤退）に登頂することができました。一方で、ピッケル・アイゼンワークの練習を十分に行えたとはいえ、課題も残りました。

また春合宿として西表島の海岸歩きを行ったり、春の旧人錬成合宿を行ったりし、ゴールデンウィークに新入生が入部してきました。

夏合宿では知床（藪漕ぎ）・大雪山（縦走）・南アルプス（縦走）の3パーティーが結成されました。また一次新人訓練合宿・二次新人訓練合宿は藪漕ぎPと縦走Pで別々に行いました。

知床パーティーは早川侑作（3年・前主将）をPLとし3年1人、2年1人、1年2人の4人で結成されました。白神山地を含むpre山行を3回行い、8月末に知床に臨むつもりでしたが、直前の羅臼岳での熊害事件により行き先を矢筈岳・ガンガラシバナ（川内山塊・新潟）に変更し夏合宿本番に挑むことになりました。（矢筈岳 [1257.3m] :マイナー12名山の筆頭であり、夏の藪漕ぎ記録のほとんどない秘境。ただ、春季の藪漕ぎなどによりトレースは存在するため、むしろ急峻な地形とそれに起因する水場の不在の方が問題。）しかしながら、仙台を出発する前日に1人が熱で不参加となり、また登山開始直後にも2人がハチに刺され撤退しました。数日近くの街に止まりましたが、うち1人は回復が見込めず離脱という状況になってしまいました。その後に残りの2人が再度挑戦しましたが、ポリタンからの

水漏れ・熊スプレーの暴発で1泊2日でエスケープすることになりました。



出発式



上からガンガラシバナを望む



急峻な尾根

大雪山パーティーは栗田煌矢（3年）を PL として3年生2人、2年生1人、1年生1人の3人で構成されました。8月から pre 山行を開始し、8月末から9月頭に旭岳→トムラウシ山ついで一旦下山して十勝岳への登頂を目指しました。しかしながら飯豊（3 pre）では予定していたダイグラ尾根が通行禁止になっており梶川尾根のピストンに変更、本番（1回目）でも旭岳には登頂したものの計画のルートに熊の危険個体が目撃され小屋の管理人の方からの助言もあり、桂月岳・黒岳を周り層雲峡に下山するルートに変更しました。pre 山行を含め天気にも恵まれませんでしたが、悔しさを胸に臨んだ2回目の本番、十勝岳ではようやく晴れて朝日と北海道の雄大な山々を堪能することができたようです。



南アルプスパーティーは岩瀬



左/十勝岳登頂

右/十勝岳からの朝日

南アルプスパーティーは岩瀬瑛太（2年・現主将）が PL を務め、2年生2人、1年生3人の計5人が参加しました。こちらも学期が終わった8月から pre 山行が始まり、下旬には千枚岳から悪沢岳・赤石岳と 3000m 級の山々を縦走する予定でした。1 pre 大東岳、2 pre 蔵王と山行を行いました。PL がコロナウイルスに罹患する不運があり、3 pre と本番は中止を余儀なくされました。



左/大東岳にて

右/蔵王



総括として、今年度の夏合宿はお世辞にもうまく行ったとは言えない結果となり、個々人の準備

が不足していたこともあったと思います。この経験・反省を来年の夏合宿に生かしていきます。

夏合宿以外にはフリー山行として沢登りや秋の縦走を行いました。また新たに1年生4人が旧鍊を修了しました。さらに11月末に OB の佐藤拓哉さん（8期）とその教え子の方から田原さんと共にロープワークを教えてくださいました。沢登りに興味のある1年生が多く、佐藤さんのわかりやすく論理的なご指導もあり熱心に取り組んでいました。

2025 年を振り返ると、何より新入生にあまり登山機会を提供できなかったこと、ひいては登山を好きになれるような体験が少なかったことは上級生として大きな責任があります。一方でその中でも積極的に活動に参加してくれる1年生には感謝をするとともに頼もしく感じています。来年の夏合宿だけでなく、冬山登山や春合宿を含め、これからは下級生と共により多くの山行機会を設け、技術などの継承を行えたらと思います。

## 主な山行・行事

- |     |   |     |               |
|-----|---|-----|---------------|
| 1月  | 栗駒山、早池峰山  | 2月  | 西表島           |
| 3月  | 卒業式・離仙式、白神岳   | 4月  | 泉ヶ岳（新歓登山）     |
| 5月  | 旧人錬成合宿、南面白山・大東岳（藪一次新）   |     |               |
| 6月  | 面白山（縦走一次新）、大東岳（藪二次新）、船形山（藪二次新）、黒森（藪1 pre）、大行沢   |     |               |
| 7月  | 前期総会、和賀山塊（藪2 pre）、枯松沢   |     |               |
| 8月  | 蔵王（大雪1 pre）、大東岳（南ア1 pre）、白神山地（藪3 pre）、鳥海山（大雪2 pre）、蔵王（南ア2 pre）、朝日連峰（南3 pre）※中止、飯豊連峰（大雪2 pre）、赤石山脈（南ア本番）※中止、矢筈岳（藪本番） |     |               |
| 9月  | 大雪山（大雪本番）、火ノ沢   | 10月 | 鳥海山、藪漕ぎ講習、船形山 |
| 11月 | 旧人錬成合宿（計2回）、最終ワン、ロープワーク講習   |     |               |
| 12月 | 蔵王、後期総会、船形山   |     |               |

## OBG会からの装備ご支援について

67期（現役2年） 石田彩恵

12月にTUWV・OBG会の方からフライ・スノーフライを含めた4人用テントとスリング・カラビナをいただきましたので、この場を借りて現役部員一同お礼申し上げます。本当にありがとうございました。有効にまた大事に使わせていただきます。

経緯としては、一昨年から雪山山行が復活し、また今年は雪山登山に参加する人数も増え雪山用のテントが不足していたため、OBG会の方に相談したところ、大きな金額の買い物にも関わらず快く了承していただきました。また、ロープワークを通して沢装備の劣化を痛感し、そちらも合わせてご支援いただけることとなりました。

昨年までは冬は小屋泊のみを行っていましたが、今年は残雪期の大朝日岳登頂を目指していることからテント泊にも挑戦しようと考えています。一時期は雪山山行がなくなってしまうため、技術の継承ができていない状態ではありますが、外部の講習会への参加、また部長・副部長先生やOBGの方のご指導を通じて、より難しい山にも挑戦していければと思います。

最後に、改めてにはなりますが、装備提供・雪山登山だけでなく、ロープワーク・沢登りのご指導や夏合宿についての情報提供・相談など日頃からさまざまな形でのご支援ありがとうございます。さまざまな方々の支えのもとでワンゲルでの活動が行えていることを強く感じる日々です。



いただいたテント



船形山山頂（12/21）

## 訃報

2025年に下記のOBGの方々が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りします。

瀬尾勝之さん（5期） 2025年5月25日、出血のため亡くなりました。享年84でした。東北鹿和会事務局によると、5月23日までは食事をふくめ変わらぬ生活をしてきましたが、24日に食欲がなく吐血したので、病院での診察も考えたそうですが、以前にも何度かあり、休んでいれば大丈夫との本人の意向に沿い、様子を見ることにしましたが、25日ベッドで危険な状態になっていたことから、救急車を呼んで病院で治療されましたが、当日にご逝去されたそうです。

松井一昭さん（12期）

### 韋駄天の瀬尾が逝く

5期 藤田凱己

ある朝、桜さんからの電話で「藤田メール見たか」と突然言われ何かと思えば瀬尾さんが亡くなったとの事、暫く呆然とする。その後は彼との思い出話ばかりでした。

思い出せば、大学3年生になり、八幡町からでは本部は遠いので近くに引っ越ししたいと考えていた。海老君と友人で霊屋下の下宿に住んでいたがその友人が出てしまい、一人ではきついので誰か募集していたので藤田が住むこととなったが海老君はすぐ寮に入れる事になり出た。二人部屋を一人では厳しいので母屋の二階に住んでいた瀬尾君を誘い二人で住む事になった。これが彼と一緒に住む事になった経緯です。

瀬尾藤田が揃えば雀荘となり良くやりました。試験前には母屋のばあさんが煩いので窓に毛布を張り明かりが漏れないようにして勉強した。電気代込みだから遅くまで電気が点いているとばあさんが煩い。

初めての東京オリンピックが行われる事となり、我々が住んでいる母屋の前の古い建物を壊して新規に建てるとの事で追い出されました。どうしようかと思案していたら瀬尾さんが下駄ばきの新築アパートを探してきて友人を誘い3人で住む事になった。

ここは広いので3人で住む事になったが1人川内を卒業出来なかったので追い出して2人で住む事になった。彼は函館で私は茨城で冬の暖房は彼はストーブ、私は炬燵と分かれたので両方の暖房を使用した。

学科が異なるので別行動でした。彼は知人が飯豊に山荘を作るとのことでボランティアで歩荷をやったりしていた。月末には河原町に住んでる八重樫（土木）と萩原（応化、故人）がメシ食わせろと来る。その日は何も無くインスタントラーメン2個を野菜多くして4人で食べた思い出もある。

卒業後はバラバラだが藤田が夏休み東北旅行をした時に八戸の自宅で今の妻を紹介された。彼は我々夫妻の恩人でもあります。 合掌

### 松井 一昭さん追悼

12期 神山 文範

12月12日、松井とのラインに、娘さん（山本良子さん）から、6日に父が亡くなったという知らせが入っていた。驚天動地の驚きだった。実は、この10月25日に僕の主催する三浦半島の低山（鎌倉アルプスや大楠山や武山等）歩きに参加されて（と言っても、持病のヘルニアで最近山道は避け別行動）、その日は我が家に泊まっていたからである。また、今年春の低山歩きで武山に登った一行を津久井浜で待っていた彼と、浜辺で東京湾越しに見える房総の鋸山・伊予ガ岳・富山に来年春には行こうと話していたからである。

その後判ったのは、熊谷で一人暮らしの彼は結婚された娘さんと毎朝ラインで連絡を取っていたが、6日朝は連絡が無く、娘さんが電話しても通じず、警察に家の中に入ってもらったところ、寝たまま亡くなっていたということだった。会社（日立金属）を定年退職後、成年後見人として多くの高齢者などの後見活動をされていた（我が家に泊まるのも成年後見人を始めた我が妻の疑問に答え、指導し、話すことが課題になっていたからだ）が、自分が被後見人になることや、介護を受けることを避けて、「ピンピンコロリ」で逝ってしまったと考えれば、誠に彼らしい最期ではあったろうが、自慢の5人のお孫

さんを考えれば、早過ぎるよ、と心から言いたい。

思えば、50 年以上前、東北の山と一緒に登り始め、仙台の八幡湯に入る度とその前の彼の住まいに寄り、大江健三郎や高橋和巳の本に触れたのが、昨日のように思えてくる。卒業後も 20 周年（二口）、25 周年（朝日）、30 周年（鬼怒沼）、35 周年（TUWV 創部 50 周年をかねて泉）、40 周年（二口）、41 周年（川渡）、50 周年（4546 の会と一緒に秋保木の家）の全てに参加したのは、松井と僕だけだ。さらに 2022 年 5 月 28 日の鎌倉の源頼朝墓の横から十王岩に登ってから（この時は登ったね）は、前述の春秋の三浦半島低山歩きに熊谷から参加され、我が家に泊まるのが常であった。

14 日の「府中の森市民聖苑」での簡素な葬儀に藤田さん（旧姓半沢）と参列させていただき、お別れしてきた。今でも信じられないが、今はご冥福を祈るばかりである。



2025 年 10 月 25 日、鎌倉瑞泉寺前にて（松井さんは左から 2 人目）

# 新年会のお知らせ

2026年1月31日(土) 14:00~16:00  
に新年会を開催します。

新型コロナ禍の影響で2021年から23年の間中止  
していましたが、24年から再開しました。

【会場】新橋亭(しんきょうてい)新館  
(右の図の新館。現在、本店はありません)

【会費】6000円(全7品、飲み放題コース)

<2025年新年会出席者>

(S39) 松木功 (S40) 小原佑一 (S41) 相沢宏保、  
朝倉肇、桜洋一郎、谷正美、真山晃一、横山雄一郎 (S42)  
青木祐二、加藤邦明、堤正尚 (S43) 大木芳正、高橋  
直樹、真尾征雄 (S44) 小笠原弘三、佐藤拓哉、前田  
吉彦、三原健治 (S45) 石野好昭、原田博夫、桃谷尚  
安 (S46) 田中康則 (S48) 神山文範 (S49) 岡部  
安水 (S50) 男沢弘、今高司 (S51) 堀江博 (S52)  
横山登 (S61) 大塚欣也 (S62) 伊田浩之 (H1) 武井圭吾 (H3) 中山武 以上32人



TUWVOBG会 会計報告(2025年)

(1) 収入

2024年年末残高 23万8500円

25. 1. 27 新年会での現役支援協賛金 3万4000円

25. 2. 17 利息 91円

25. 8. 18 利息 204円

合計 27万2795円

(2) 支出

25. 1. 24 新年会援助(平成卒業2名分) 6000円

25. 12. 18 現役装備支援

4人用冬テント、カラビナ等3年分) 12万9860円

同上送金手数料 330円

2025年年末残高 13万6605円

合計 27万2795円

注) \*は1994年以降、OB会新年会会計はOB会会計と別立として運用してきたが、この度一本化した。すなわち、2024年5月に支出した現役支援金(2人用テント購入費6万8200円と送金手数料550円の計6万8750円)はOB会新年会会計より支出し、その残高2万4399円を入金して、会計を統合したものの。

・「若い人の参加を促すために」、平成、令和に卒業した方の新年会の会費の半額は新年会の残金から補助しています。残金が不足した場合は、OB会の会計から補助することとしています。

★★ 幹事より ★★

※ OB会報56号をお届けします。多くの方から原稿を送っていただき、ありがとうございました。

※メールアドレスが変更になった方は1ページ目のメールアドレスまでご一報下さい。

※この会報は原則としてOB会のホームページにアップするだけとし、メールによる配信は行なっていません。メールアドレスがわからない方には郵送してきましたが、原則として郵送は終了しました。